日々想々

記憶×かたち ～商店街の魅力～

鈴木 茂基

今も昭和の建物が残る商店街、ここに行きつけの店があった。

オーナーシェフがひとりでやっていた小さなイタリアンの店で、「いつもの」で注文ができるほど長い間楽しませてくれたところである。

食べ物で懐かしいあの頃を思い出す。そんなことはないだろうか？

もう何年も前に閉まってしまったが、久々に開催された祭りの日、商店街に行ってその店の前を歩いてみた。

懐かしい味を楽しむことはできないが、商店街を歩いていると、かつての記憶がたくさん蘇ってきた。まるで懐かしい曲を聴いて当時のことを思い出すのとよく似ている。

新しいアルバムが出ると必ず行ったレコード店。初めてグローブを買ってもらったスポーツ用品店。

我が家の家電はほとんどここで買っていた電気店。

他にも父の紳士服や母の着物、初めて身に着けた腕時計やめがね、趣味のギター！…。

振り返ればこの商店街にはよく買い物に来たものだ。

多くの店はシャッターを下ろしてしまったが、商店街はここで買い物や飲食をしていた人たちの記憶と結びついている。記憶があるのとないのとでは、まちの印象は随分違う。

魅力的なまちには、人の記憶を呼び起こす歴史とかたち（当時のまちなみや古い建物）が残っている。

ずいぶん前に地域商店街活性化法というのが施行された。空き店舗利用の支援や商店街を担う人材育成を図るものであるが、商店街の再生は、記憶の舞台となっている「まちなみや建物（かたち）」を生かすことにあるようだ。

やっぱりショッピングモールを歩いているのとは違う。ショッピングモールでの買い物が思い出という平成生まれの人たちの記憶を少し残念に感じるのは、随分年を取ったせいかもしれない。

ちょっとレトロな雰囲気にひかれた若者が「ここで店を出したい」と言った。

実はこの店、私の思い出の舞台になったところなんです。

軒続きの無人の店、その舞台袖から拍子木の音と黒衣（くろご）の声が聞こえた気がした。

「とざい、とーざい」

さあ集まれ、新しい人情喜劇の幕開けである。

（コクド鑑定・調査㈱・代表取締役社長・不動産鑑定士・ヘリテージマネージャー）

33年ぶり令和の五郷入り
伝統の榊原かんこ踊り
全地区そろって射山神社に奉納

津市榊原町にある式内射山神社（宮口重明宮司）の秋祭りで9日（日）、榊原かんこ踊りが奉納された。踊り関係者と観覧者約500人が境内に集まり、33年ぶりの五郷入りの合同踊りを楽しんだ。

榊原かんこ踊りは先祖供養や五穀豊穣、家内安全を祈る踊り。全5自治会区にかんこ踊りが保存され、市の無形民俗文化財に指定されている。

一つの地区を除いて20数年途絶えていたが、平成28年度の地方創生加速化交付金をかんこ踊りの全地区復活に充て、不足していた太鼓や衣装などを調達して完全復活を目指してきた。

平成元（1989）年の射山神社御遷座400年祭に、5自治会のかんこ踊りが神社境内に入り、平成6年に伊勢市で開かれた「まつり博みえ94」で全区が踊りを披露。以来、射山神社の奉納は平成14年頃まで続いていたが、その後は後継者難で踊りが絶えていた。

昨年すべてが復活したものの、コロナ禍で五郷入り奉納が実現できず、今年は待ちに待ったかんこ踊りの五郷入りとなった。

一年延びると大太鼓を打つ小学生がまた減ると心配の声もあり、今年度は小学生28人（男7人、女21人）全員が太鼓を打った。これまで男児だけだった踊りに女児も加わるようになった。

地域の活性化に熱意を持って組成された「榊原地区かんこ踊り五郷入り実行委員会」の発起者でもある奥山知喜実行委員長（74）は、「コロナで予定通り進まなかったけど、みんながつになってよく頑張ってくれた。地域は人。歴史ある榊原の残せるものは残していきたい」と語っていた。

（写真・記事とも増田晋作さん）

赤い羽根共同募金運動スタート
近鉄津新町駅で呼びかけ!!

今月1日から始まった令和4年度赤い羽根共同募金運動に合わせて、3日（月）、近鉄津新町駅前で街頭募金活動が行われた。県・市の関係部局職員をはじめ、社会福祉協議会関係役員ら約ら30人が協力を呼びかけた。県共同募金会（小笠原まき子会長）と津市共同募金委員会（黒田敏克会長）主催。

運動は半年間にわたり展開される。寄せられる善意は、希望する県内福祉事業者に毎年4月に配分（助成）する形で、主に「自分の町」の福祉に役立てられる。

この日、清泉愛育園の園児も混じって午前7時50分から半時間、駅利用者に協力を訴えた。

45万1495円を共同募金へ寄付
「UMOUプロジェクト」

羽毛リサイクル事業を展開する河田フェザー（株）＝多気郡明和町、河田敏勝代表取締役＝と、障がい者福祉サービス事業所「ありんこ」は3日（月）、「UMOUプロジェクト」の収益の一部から、45万1495円を津市桜橋の県共同募金会（県社会福祉会館2階、小笠原まき子会長）に寄付した。

同プロジェクトは、使わなくなった羽毛布団やダウンジャケットなどの羽毛製品を地域から集め、リサイクルする仕組み。県共同募金会に持ち込まれる不要な羽毛製品をエコランド（株）経由で河田フェザーが買い取り、その分解・解体作業を同社が「ありんこ」に業務委託している。国内では三重と山口2県のみ。

この日、受贈式があった。エコランドと河田フェザー代表代理の黒田さんと「ありんこ」関係者、小笠原まき子会長らが出席、寄付金の目録が手渡された。

黒田さんは「従来、年度末に寄贈を行ってきたが、今回は『赤い羽根共同募金運動』の開始月に実施できた。このプロジェクトがさらに広がれば」と期待を込めた。寄付金は共同募金の趣旨にのっとり、地域福祉の推進に有効に活用される。

「山添昌良のゴルフPRO目線」
高校生橋本拓英選手が出演
三重テレビ22日（土）・29日（土）

7月にスタートした三重テレビの番組「山添昌良のゴルフPRO目線」に今月、今年三重県オープンでアマチュアの部で優勝した津市在住の橋本拓英選手（三重高校1年）が出演。

この番組は毎週土曜に午前8時から30分間放送。シニアツアー3勝のプロゴルファー山添昌良さんがプレー中、随所でスマホや小型カメラで選手を撮影し、アマチュアにもわかりやすく、ゴルフのさまざまなシチュエーションをプロ目線で解説。山添プロらシニアプロと女子プロ、ジュニア選手がチーム戦を行い、世代を超えて楽しめるゴルフの魅力を紹介する。

橋本選手の出演は22日（土）と29日（土）。津市のCOCOPARE SORT CLUB 白山ヴィレッジコース KINGコースが舞台。橋本選手は高校1年生とは思えない体格から繰り出される迫力あるショットで魅了している。

同局では「随所に選手の目線に近い、プロ目線映像をちりばめ臨場感豊かにお送りします。ぜひご覧ください」と話してる。

津一志空手スポ
伊藤展梧選
「沖

沖縄県で8月に開かれた「第一回沖縄空手少年少女世界大会」の古武道（棒）の部で優勝し、

感染症対策事業
明治安田生命保険相

明治安田生命保険相互会社津支社は5日（水）、「コロナ対策に役立ててほしい」と、津市の新型コロナウイルス感

ポーラ緑ヶ丘　ビューティーコラムシリーズ第5回

きれいのポイント教えます！

シワのお手入れポイント

今回はおシワの話。「シワ」は、突然現れるものではなく、徐々に進行していくことで深いものになっていきます。

【第1段階】
肌表面が乾燥することでしなやかさが損なわれ、肌に細い溝『小シワ』に。よく動く目元や口元などに多く、長く続くと深いシワに繋がります。

【第2段階】
同じ表情を繰り返すことで、表情筋が縮まってできる『表情シワ』や、加齢や紫外線などの影響で肌の内部がダメージを受け、『深いシワ』に。

【第3段階】
表情筋が衰え、肌内部の構造が変化し、皮膚や脂肪を支えきれなくなることで肌全体が下がり、『たるみ』に。

〈お手入れ方法〉
◆年間を通して紫外線&乾燥対策（特に乾燥する部分にクリームを重ねづけ◎）
◆表情筋を鍛える体操（口を大きく動かす）
◆マッサージで筋肉の緊張を緩める
◆コラーゲンの修復を助ける食事（手羽、軟骨、ビタミンC）を摂る

『シワ』が気になったその日からお手入れを。表情豊かな毎日を過ごしてくださいね！

お店の情報はこちらから

津市緑が丘1丁目21-7 TEL059-273-6955